

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 69	提案機関名 畜産技術センター 企画指導部普及指導課
要望問題名 豚の凍結精液に関する研究	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・ 県内の養豚経営では、各農場で優良種豚の改良に取り組んでいる。 ・ しかし、豚コレラ等の家畜伝染病が発生した場合、自農場に適した改良の進んだ種豚の維持ができなくなる懸念があり、生産者から優良種豚精液の凍結保存の要望がある。既に一部の県では、精液の凍結保存に取り組んでいる状況と聞いている。 ・ そこで、県内の優良種豚の遺伝能力を保存し、凍結精液の保存・供給体制の構築に資するため、本県における精液の凍結保存技術の確立に取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター      ③水産技術センター      ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 畜産技術センター	担当部所 企画研究課
対応区分	①実施   ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 豚精液の凍結保存に関する試験 (1995、神畜試研報No.85)	
対応の内容等 豚精液の凍結保存技術は、最近の悪性伝染病が発生している状況において、優秀な種豚の保存、遺伝資源保全のための必要な技術と認識しております。凍結精液の利用は「豚凍結精液利用マニュアル」 <sup>※1</sup> があり、当所でも過去にこの方法に基づいて精液の凍結保存技術に取り組んだほか、広島大学 <sup>※2</sup> の論文では精液の凍結条件、融解条件、新規希釈液の開発等を軸にした成果などが報告されており、優良遺伝子の保存という点で一定の成果が得られているところです。要望にある凍結保存技術の確立については、凍結精液の活用が系統豚の維持に有効な手段の一つと考えられることから、検討したいと思っております。なお、県内種豚の精液や受精卵などを凍結保存する体制の構築については、施策的な内容ですので、畜産課に報告してまいります。	
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
備考 ※1 丹羽太左右衛門、日本家畜人工授精師協会発行：豚凍結精液利用技術マニュアル，1989。 ※2 岡崎哲司：ブタ精子及び精漿の機能解析、それを基とした凍結精液による人工授精法の開発に関する研究，2010。	